次のページ

有害鳥獣から農地を守るには!!

有害鳥獣による農作物の被害は年々拡大傾向にあり、今年も農作物の植え付けや収穫時期を迎え、町内各地で被害が発生しております。そこで今回は有害鳥獣による農作物被害を未然に防ぐための方策や町の取り組み等についてお知らせします。

●被害の現状、行動範囲

ニホンザルは、花場・蔦木・机の3方面にグループが生息し、イノシシ・ニホンジカはほぼ全町に生息しており、平成14年度の農作物被害は、田畑6.3haで金額668万3千円となっています。

●町の取り組み

町では、有害鳥獣対策協議会を設置し、猟友会の皆さんの協力を得るなど地元の皆さんと連携して駆除方法等を協議し被害対策に取り組んでおります。具体的な取り組みとしては、柵のモデル設置、捕獲オリの設置、忌避材や木酢液、防護柵の補助等の実施、近隣市町村との情報交換等です。

●捕獲数

特に被害の多いニホンザル、イノシシ、ニホンジカの最近3年間の捕獲数はニホンザル99頭、イノシシ32頭、ニホンジカ194頭となっており、捕獲については、町猟友会の皆さんの協力を得て行っております。

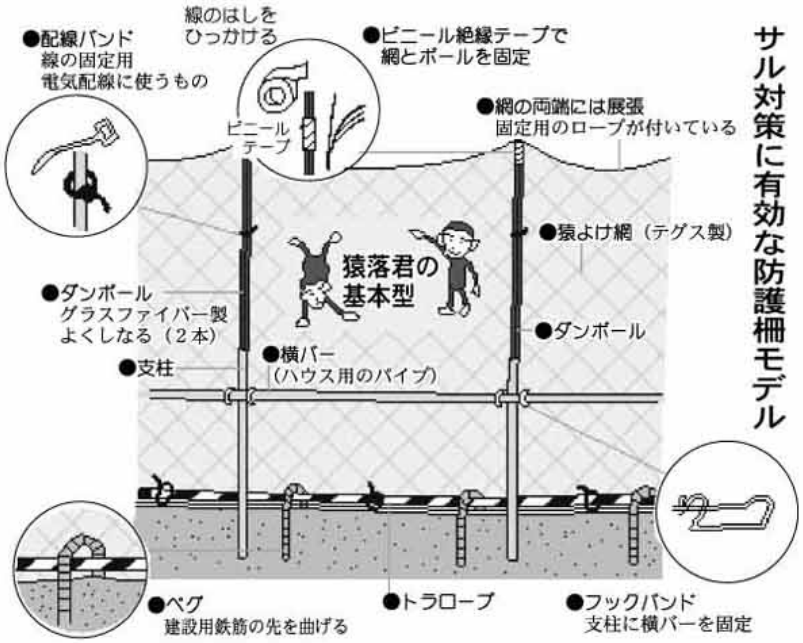
●許可権者別のおもな有害鳥獣駆除の対象鳥獣

次に掲げる鳥獣について、駆除する場合には町長又は県知事の捕獲許可が必要になります。

町 サル、イノシシ、ハシブトカラス、キジバト、ノウサギ、カルガモ、スズメ他

県 ニホンジカ、カモシカ、タヌキ、ハクビシン、キツネ、アナグマ、ムクドリ他

サル対策に有効な防護柵モデル



●農作物の被害があった時は

農作物の被害があった場合には、有害鳥獣駆除の許可に関係しますので、農政係まで連絡をお願いします。

●有害鳥獣から自分の農地を守るには

＊ニホンザル

図々しいようでも、サルは人前に身をさらすのは苦手です。畑の周囲のヤブを刈り払うなど、見通しをよくすることで畑へ来にくくなります。また、畑の周りをサル専用の柵で囲うようにし、農作物を守りましょう。収穫後の野菜クズや収穫しない柿など、農地や家の周りからサルのエサとなるものを無くすことも大事な対策の一つです。

＊イノシシ

イノシシは臆病で注意深い動物です。耕作放棄地や田畑周辺のヤブを刈り払って見通しをよくし、隠れ場所をなくすなど、イノシシが嫌がる環境をつくるのが対策の第一歩です。トタンや金網、あるいは電気柵で囲うのは重要な対策ですが、安心は出来ません。わずかなすきまでもあれば進入してしまいます。設置後の管理も重要な作業です。

＊ニホンジカ

防除柵はシカの被害対策の中心です。徹底して柵を張り、物理的に農作物を隔離し、上手に管理を行えば、被害を少なくすることができます。柵はシカから農作物の被害を防ぐ最大の方策です。

のうさいの農作物被害事業助成金活用を

のうさいの組合員が共済加入している農作物の有害鳥獣被害の未然防止に要した経費について、その一部を助成する制度をご存じですか。のうさいの組合員2名以上で事業を行い、要した経費が10万円以上の場合に交付基準により助成します。

例　事業費10万円
南信農業共済組合で3万円と、同諏訪支所で4万円、
自己負担3万円

▼問い合わせ
南信農業共済組合諏訪支所
☎73－3211

▼問い合わせ
産業課　農政係
☎62－9232
㈲9232